

園地では、3月の剪定後にアプロードフルアブル1,000倍とハーベストオイル80倍を混用散布しましょう。



▲サンホーゼカイガラムシ

なり、翌年の発生源となります。園外に持ち出し処分しましょう。

今年は11月に入つても暖かい日が続い

ていますので、早めの剪定開始は樹を傷める恐れがあります。落葉時期・樹液が止まつたタイミングを見極め、剪定を開始してください。

【整枝剪定】

剪定時期は、葉が完全に落葉してから実施してください。

主枝と亜主枝をしっかりと認識して、樹勢のバランスを見ながら剪定を行つてください。

【休眠期防除】

休眠期の防除の有無によって、病害虫の発生量が大きく違います。

生育期の発生量を抑え、防除回数を減らすためにも必ず行つよにしてください。

近年、特にカイガラムシ類の発生が多いようです。一度寄生してしまふと防除が困難になります。防除前に、粗皮剥ぎやブラシ掛け等でカイガラムシの駆除を徹底しましょう。

ジベレリンを25～50ppmで年内に散布しましょう。

◎発芽(開花)前に防除してください。倍数は、品目ごと農薬の登録内容を確認して散布しましょう。

◆注意点

展着剤を入れ、ムラ無く樹を洗つよう

に丁寧に散布してください。

散布は風のない日を選び、飛散防止ノ

落葉果樹

【園内清掃】

落ち葉や落果は、病害虫の越冬場所に

ズル等を使用するなど、飛散しないよう注意しましょう。

特に園地周辺に住宅などがある場合

は、散布田をお知らせするなどの配慮が必要です。

は、散布田をお知らせするなどの配慮が必要です。

は、散布田をお知らせするなどの配慮が必要です。

いちじく

【剪定の時期】

剪定は樹液流動の少ない1月から2月の間に行います。しかし、切り口から樹液が出るような気象状況の時は、樹液流動が少なくなつてから剪定を開始します。

樹勢の強い樹では間引き剪定を、樹勢の弱い樹では切り返し剪定を主体に行いましょう。さらに、誘引等で整枝を行い、作業効率の良い樹づくりに努めましょう。

密植園では、収穫や防除などの作業性が悪く、果実品質においては、日照不足の影響により着色不良果や病害虫被害果が多くなりますので、間伐を行いましょう。

混んでいるからといって剪定で樹を切りつめますと、強剪定となり強樹勢になつてしまふので、「注意ください」。

【ハウス栽培】

め、20日間は取りましよう。

また、被覆から萌芽までの期間は多く

の水分を必要とします。被覆直後にたつぶり(30～40mm)灌水を行つてください。その後も定期的に20mm程度の灌水を行

い、ハウス内の湿度を保つようにしてください。また、結果母枝の乾燥防止のために一日一回は枝散水を行つてください。

※12月～1月中旬加温のデラウェアの施設栽培では、加温開始10日後を目途に

揚水を確認して休眠打破(CX-10処理)を行なうと、発芽の揃いが良くなります。

【整枝・剪定】

樹形にとらわれすぎず、樹勢に応じて加減することが大切です。

※デラウェアの加温栽培では、各作型の作業が重ならないよう、栽培計画を立て、計画的に作業を行いましょう。

◆注意する害虫

コスカシバの補殺

農業のことなら専門的なことから家庭菜園まで、お気軽にご相談ください。JAは、新たに農業を始められる方も支援しています。

なし

植栽間隔が狭い園では必ず間伐を行ない、園内に日光が差し込めるようにします。そのまま畑に放置すると病気や害虫の温床となってしまうので、今年被害を受けた畑は特に念入りに片付けましょう。

混み合ったまでは樹勢の低下だけでなく収量の低下や、病害虫が多発しやすくなるなどの影響があります。

【剪定】

主枝と副主枝を見ながら、剪定を行ってください。

◆灌水

なしの根は冬の間も養水分を吸収し、腋芽の花を作っています。乾燥しないように12月中は10日に1回10mm程度の灌水を行ってください。

家庭菜園

【畑の片付け】

収穫後の残渣や資材を畑の外に持ち出します。そのまま畑に放置すると病気や害虫の温床となってしまうので、今年被害を受けた畑は特に念入りに片付けましょう。

支柱などの資材は、この時期に回収して清掃すると長持ちします。また、資材の状態を確認することで、来年準備する資材の日星を付けることができます。

【農具の手入れ】

スキやジョレン等の農具は、使用後に土を落とさないとすぐに錆びてしまします。また、使用するうちに、剪定バサミは刃が摩耗し、カワなどは角度が変わります。効率的な作業を行うためにも、この時期に手入れをしましょう。

【土づくり】

植物が健康に生きるために、土が健康でなければいけません。定期的に堆肥や土壤改良資材を投入して、土の状態を調整しましょう。

◆堆肥の役割

①土の物理性を改善します。畑がふかふかになり、根張りが良くなります。また保水性・排水性ともに向上します。肥持ちも良くなります。

②病害虫に強くなります。堆肥の投入により微生物の種類が増えることでお互いが影響し合い、異常繁殖を防ぐこと

が出来ます。

③様々な微量元素が供給できます。

◆石灰資材の役割

①土壤酸度、pHを調整します。土は基本的に酸性の性質をもつており、野菜にとって好適な、弱酸性～中性に調整するためには石灰質が必要です。

雨などによつても土壤酸度は酸性に傾いていくので、作付けごとに石灰資材を投入しましょう。

◆雑草の防除

冬の間は雑草の生育も鈍くなります。今この間に処理を行つておくと春以降の作業が楽になります。種が落ちる前に畑の雑草を抜き取りましょう。

草があまりに多い場合は、除草剤の使用も考えられます。堆肥や石灰を入れ、耕耘する前に早めに散布しましょう。

雑草はどうしても生えますが、小さいうちに抜き取ることで徐々に密度を減らすことが出来ます。大変ですが、小さな作業を心がけましょう。

【結球野菜について】

◆追肥

12月下旬以降に追肥を行います。1m当たり化成肥料を1握り程度施しましょう。



タマネギの代表的な病気としてベト病が挙げられます。秋から冬にかけて感染し、暖かくなつた春に大発生することがあります。

タマネギの代表的な病気としてベト病が挙げられます。秋から冬にかけて感染し、暖かくなつた春に大発生することがあります。

◆病気の予防

发病すると枯死したり生育が著しく劣ります。感染株は袋に入れて圃場外に持ち出したり農薬による防除を実施しましょう。

◆寒くなつたのに結球しない

結球を行うためにはある程度の大きさに生育し、外葉の枚数を確保する必要があり

あります。品種にあつた時期に定植を行うことが大切です。また定植後に乾燥が続ぐと生育が遅れるので、雨が降らないようなら灌水を行う必要があります。

◆葉の縁が茶色く枯れる

病気などが原因の場合もありますが、カルシウムやホウ素が不足しても起こります。施肥設計の見直しや乾燥を防止します。

あります。品種にあつた時期に定植を行います。そのまま畑に放置すると病気や害虫の温床となってしまうので、今年被害を受けた畑は特に念入りに片付けましょう。

支柱などの資材は、この時期に回収して清掃すると長持ちします。また、資材の状態を確認することで、来年準備する資材の日星を付けることができます。

スキやジョレン等の農具は、使用後に土を落とさないとすぐに錆びてしまします。また、使用するうちに、剪定バサミは刃が摩耗し、カワなどは角度が変わります。効率的な作業を行うためにも、この時期に手入れをしましょう。

【タマネギの管理】

タマネギの代表的な病気としてベト病が挙げられます。秋から冬にかけて感染し、暖かくなつた春に大発生することがあります。

タマネギの代表的な病気としてベト病が挙げられます。秋から冬にかけて感染し、暖かくなつた春に大発生することがあります。

タマネギの代表的な病気としてベト病が挙げられます。秋から冬にかけて感染し、暖かくなつた春に大発生することがあります。

タマネギの代表的な病気としてベト病が挙げられます。秋から冬にかけて感染し、暖かくなつた春に大発生することがあります。

发病すると枯死したり生育が著しく劣ります。感染株は袋に入れて圃場外に持ち出したり農薬による防除を実施しましょう。